

2021年7月27日（火）

老球の細道622号

東京五輪、嵐の出発

会津バスケットボール協会 室井 富仁

新型コロナの急拡大、大会関係者の不適切発言による辞任、解任問題で直前までもめにもめた東京五輪が嵐の中なんとかスタートした（NHKでは「嵐」が司会者だった）。開会式における重要な役職を務める人たちが直前にこけてしまったが、組織はトップがいなくても動く。組織は下々の人達の努力で機能することが示された。

今回の開会式をテレビで観ていたが、前回の1964年東京大会と比較するとインパクトが弱かった。前回は10月10日絶好の秋晴れの日中に行われ、不滅の名曲、古関裕司の「五輪マーチ」によって世界の国の選手団が整然と行進をしていた。当時は90か国くらいに行進で、世界にはこんなにたくさんの国があるのだと感動したことを、当時小学6年生だった私は今でも記憶している。今回は200か国以上が参加していた。

早速競技が始まったが、最初に観たのは今大会初種目のバスケットボール競技「3×3」であった。以前ゼビオなどが主催していた「3on3」などのバスケットボールには興味がなかったが、今回日本代表のヘッドコーチにトステイン・ロイブルが就任したので、私の関心度は俄然高まってしまった。

初日は男女ともに2試合が行われ、現在男女とも予選リーグ1勝1敗の成績である。3×3バスケットボールはラグビーと同じようにコーチがベンチから指示を出すことができない。タイムアウト時も選手同士で話し合うだけである。そのため、テレビでトステインの表情や指導する様子を見られないのが非常に残念である。

3×3は身長差が大きく影響するかと思っていたら、日本代表チームは男女ともサイズは小さいのだが、それほどサイズの影響は感じさせないで戦っていた。ショットクロックが12秒、メンバーチェンジが1人しかいない、試合時間は10分、タイムアウトは1回というルールの中では、サイズよりスピードとスタミナがより高く要求されるように感じた。しかも3対3なのでコートスペースを広く使える。ドライブがしやすく、ディフェンスにとってはヘルプがやりにくくなる。したがって、日本チームのようにドライブが速く、アウトサイドシュートが得意なチームは有利になりそうである。他の種目で有力選手たちがまさかの予選落ちする中で、大会初の3×3で日本バスケットボールの歴史を作ってほしい。

そもそも五輪は19世紀後半にフランスの貴族ピエール・クーベルタンが英国パブリックスクールでのスポーツ教育と古代五輪遺跡発掘のニュースで影響を受けて思いついたイベントである。目的は、スポーツを通じて世界の若人が文化や国の違いなどをお互いに理解し合い、友好を深めて世界平和に貢献することである。

近年、高邁な理念で連綿と行われてきた五輪であるが、その運営経費の高騰、マスメディアとの関係、ドーピング、テロ、国籍、種目数の増大などが問題になっている。SDGs、五輪もこれから持続可能なイベントして残れるだろうか。